

研究開発課題事後評価結果

事業名（年度）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 （平成30年度～令和2年度）
研究開発課題名	糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
分担研究開発課題名	IgSF膜タンパク質の糖鎖の構造、機能解析と、がんにおける治療標的の確立
代表機関名	国立大学法人東京大学
研究開発代表者名	村上 善則

【評価結果】

優れている／計画した成果をやや上回る成果が得られた

【評価コメント】

CADM1の糖鎖情報を活用し、肺小細胞癌(SCLC)の血清診断用及び治療用の抗体の開発において優れた成果が挙げられた。SCLCの分子標的薬は未開発であるため、糖鎖修飾CADM1の研究は独自性と優位性が高く、研究成果の全体にわたり実用化の価値があること及び企業との共同研究契約の締結について高く評価される。実用化を意識した知的財産の確保や着実に論文成果を出している点についても評価できる。

一方で、CADM1のNQ変異体やバリエーション体を発現する細胞への接着性のみに基づいて、SCLCの高転移性、ATLLの高浸潤性に対して、CADM1のN-型糖鎖は促進的に、O-型糖鎖は抑制的に機能するとの結論が出されている点について、より多角的な検証が望まれる。また、脳や精巣などの正常組織にも発現するCADM1を標的とした抗体を用いた創薬では、副作用が重大な問題にはならない可能性が高いと論じているが、臨床への応用に当たっては慎重に進めてもらいたい。

以上